

令和2年度SDGｓチャレンジサポートプロジェクト

第1学年キックオフ講演会

(概 要)

令和2年度の探究学習のスタートとして、第1学年生徒を対象にキックオフ講演会を実施しました。本校SGHの時期から継続してご指導を頂いております、筑波大学 生物環境系教授 鈴木石根（すずきいわね）先生を講師にお招きして、貴重なご講演を頂きました。

これから1年生は、グループごとに研究主題をそれぞれ設定し、年度末の探究学習発表会を目標に、1年間の調査・研究を行います。今年はどんなユニークな研究が生まれるか楽しみです。

記

1 目 的 探究学習のテーマ設定に関して、SDGｓとは何かを理解する

2 期 日 令和2年6月30日（火）14:00～16:00

3 場 所 クラフトシビックホール（土浦市民会館）

4 対 象 第1学年生徒 320名

5 講 師 筑波大学 生物環境系教授 鈴木 石根（すずきいわね） 先生

6 内 容

鈴木先生は、ご自身の海外での体験を例に挙げながら、国連が定めたSDGｓの目標は、人類共通の課題であると強調されました。またご専門である藻類を活用した環境エネルギーリサイクルの研究成果を紹介されながら、自分の研究がSDGｓの17の目標のうち何の役に立つのか、研究者はいつでも説明できるようにしておかなければならないと述べられました。最後にこれから私たちは、普段の何気ない生活がSDGｓとどうつながっているかを常に意識し、利己的ではなく、誰かのために生きるべきであると説かれました。

7 参加した生徒の感想（一部抜粋）

・中学の時、社会科の授業でSDGｓについて勉強し、自分の興味のある項目をまとめた
が、当時は自分にはあまり関係ないと思った。しかし今日の講演を聞いて高校生の自分でも世界に貢献することができるんだと気づいた。もう一度自分で調べ、興味のある目標を見つけて少しずつ実践しようと思う。者周りのできることから協力し、環境、社会経済に貢献したいと思う。

・普段から SDG s を意識して生活することはない。そこで、小さいことからでも関連したことを一人一人がやれば世界では大きな成果となる。自分も社会の一員であるということ強く意識して、少しでも社会に貢献できるような人になることが大切である。SDG s のターゲットを身近に考えて、自分なりに取り組んでいくべき。

・どのような境遇にあらうと、人につながり、人を喜ばせる努力をしたいと思った。自分と目指すものが違うからといって、その人から興味をなくすのではなく、自分とその人を比べたり、その人の考えや人生を知り、自分が感じたものを大切にしたいと思った。

・SDG s に 17 の目標があると聞いたとき、そんなに改善することがあるのかと驚いた。しかしその目標は、私たち全ての異なる人種が、ひとしく幸せに生活する、生きていくために欠かせないものであることが分かった。これからの探究学習では、この SDG s の目標にできるだけ多く関りがあることについて学習したいと思った。

・中学校で SDG s を学んだ際には、国境なき医師団や自衛隊の社会貢献活動など、大規模な活動しか知らなかったが、今回の講演を聞いて、私たちにとって身近なことで、できることがたくさんあると気付けた。また、生物学の面だけでも環境に良い活動がたくさんできることに驚いた。

・日本の今の生活環境は本当に安全で便利で快適だということが感じられた。またその裏側で環境を破壊していたり、国によって全く違うということが多くあって、私たちが手を打たないといけないと思った。

7 講演会の様子



キックオフ講演会



1 学年対象



SDG s についての説明



鈴木先生の研究について



質問する生徒



生徒お礼のあいさつ